

《担当者名》薄井明

【概要】

「社会学(sociology)」は、高校までの「社会科(social studies)」とは異なる。また、社会学は同じ「社会科学(social sciences)」に属する法学や経済学とも区別されるが、それは単に考察対象が異なるのではなく、同じ対象であっても分析・考察する視点や概念が異なることによる。社会学のキーワードには、例えば「相互行為」「地位と役割」「同調と逸脱」「集団と組織」「インフォーマルグループ」「社会階層」などがある。これらの概念を駆使して、他の学問とも異なり、「常識的な見方」とも異なる独自の分析・考察の観点を提供するところに社会学の面白さがある。

【学修目標】

[一般目標]

社会人および医療人として現実的な社会現象を分析する視角としての「社会学的視角」を理解し、その分析視角および分析概念を応用可能なレベルで身につける。

[行動目標]

1. 現代社会に発生する対人相互的・集団的および全体社会的な諸現象を各自が分析する基本的な観点を身につける。
2. 「迷惑行為」とカテゴライズされる対人行為を「相互行為儀礼」の観点から分析できるようになる。
3. 「会話」という相互行為を「会話分析」の観点から分析できるようになる。
4. 「自己成就的予言」「自己破壊的予言」のメカニズムを理解し、これに該当する現象を分析できるようになる。
5. 「レイベリングと逸脱行動」の観点から、現実の逸脱現象を分析できるようになる。
6. 「準拠集団と相対的剥奪」に該当する現象を識別し、分析できるようになる。
7. 現代社会の変動の趨勢を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	「社会学的思考法」とはどのようなものか、「社会」のいくつかの水準について考察する。	薄井明
2	対面的相互行為(1)	対面的相互行為の構造を理解するために、「迷惑行為」とは何かを参考に考察し、「相互行為儀礼」の観点を紹介する。	薄井明
3	対面的相互行為(2)	引き続き「相互行為儀礼」の観点から対面的相互行為を「神聖な自己」「テリトリー」「関与」の側面から考察する。	薄井明
4	対面的相互行為(3)	会話という相互行為を「会話分析」の観点から考察する。「発話番交替システム」という概念を紹介する。	薄井明
5	対面的相互行為(4)	引き続き「会話分析」の考え方を紹介する。(「隣接ペア」「前置きシークエンス」「挿入シークエンス」「分離標識」など)	薄井明
6	対面的相互行為(5)	会話分析の具体例を「語り」に焦点を当てて紹介する。	薄井明
7	社会的相互作用(1)	人々の社会的行為が集積した帰結としての「自己成就的予言」のメカニズムを実例に則して考察する。	薄井明
8	社会的相互作用(2)	「自己成就的予言」の他の例を紹介し、全く逆の「自己破壊的予言」についても考察する。	薄井明
9	社会的相互作用(3)	非行・犯罪の理論である「レイベリング」理論の基本的な観点を具体例に則して紹介する。	薄井明
10	社会的相互作用(4)	「ラベリング」理論の応用篇として、「戦後日本の精神医療と精神障害者の社会復帰」の問題を考察する。	薄井明
11	集団と階層(1)	個人と集団との関係の問題のうち「準拠集団と相対的剥奪」について考察する。	薄井明
12	集団と階層(2)	「準拠集団と相対的剥奪」の観点を「中途障害者」の問題に当てはめて考察する。	薄井明
13	集団と階層(3)	現代社会における「相対的不満」の増大の問題を「準	薄井明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		拋集團」としての「階層」の観点から考察する。	
14	現代社会	現代社会の変動の趨勢のうち、「合理化と官僚制」「ポスト産業社会と情報社会」などの側面を取り上げて考察する。	薄井明
15	総括	これまでの学事項を確認し、残された課題を展望する。	薄井明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

中間課題（15%）+ 定期試験（85%）

【教科書】

特に使用しない。

【参考書】

渋谷昌三 著 「人と人との快適距離」 日本放送出版協会 1990年

安川一 編 「ゴフマン世界の再構成」 世界思想社 1991年

勢古浩爾 著 「わたしを認めよ！」 洋泉社 2000年

その他、適宜紹介する。

【備考】

必要な資料は適宜配付する。

【学修の準備】

「相互行為儀礼」のテーマを考察した後、中間課題を課すので、学習内容を復習すると同時に、「迷惑行為」を観察し記録しておくこと。

事前に資料を配付することがあるので、その際は必ず読んでおくこと。また、授業内の配付資料で割愛した箇所は授業後に必ず読んでおくこと。

授業の準備に1時間、授業後の復習に1時間をあてることを標準とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。